

# 1 自己評価及び外部評価結果 つばきはうす分

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100923		
法人名	社会医療法人 明和会 医療福祉センター		
事業所名	グループホームさくらはうす・つばきはうす		
所在地	鳥取県鳥取市覚寺180番地		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	令和4年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp">https://www.wam.go.jp</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和4年9月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の尊厳を第一に考えた関わり方・対応が行えるように話し合っている。コロナ禍にあっても心身機能維持の為、散歩やドライブなどできる限り外気浴の機会が持てるよう支援している。家族との関係が途切れないよう屋外で距離を取って面会したり、オンライン利用など出来る限りの努力をしている。地域の方との交流も困難な状況にあるが、公民館や美術館に作品展示し感想を頂くなど認知症への理解も得られている。外出の機会が少なくなったため、午後からドライブやレクリエーションに時間をとり、ストレス解消や楽しみの場が持てるようにしている。入居者の希望や旬の食材を取り入れたり、家族からの差し入れの野菜などで毎食手作りの食事作りをしている。四季折々の室内飾りや花、季節の行事など、入居者と一緒に行き行うことでともに生活を楽しんでいる。入居者が健康で安全な生活が送れるように、医療職・リハビリ・管理栄養士等多職種で連携、支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症があっても楽しく笑顔で暮らせる本来のホームの意義をしっかりと踏まえた理念を作成し、職員も常に念頭に置いた上でケアをされている。利用者個々の希望に応じた趣味の活動や利用者の残存機能が発揮出来るよう、それぞれのペースに添った支援をされており、生き生きと活動しておられる姿が伺えた。日々、利用者同士が協力し合いながら、日常生活を送られ、また、密にならない場所へのドライブ、外出レクが行なわれる等、楽しみの継続が行われていた。食事は、職員と利用者が楽しみながら作られ、月に1回は、管理栄養士等のアドバイスを受けられている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁面の分かりやすい場所に掲示し、スタッフ会議・チーム会で入居者個々の心身状態を話し合い、その人らしさを大切にされた支援が出来ているか振り返り、今後のケアに活かしている。	運営理念、生活理念は、玄関、事務所に提示され、ゆっくり一緒に楽しんで、家庭らしさを出せるよう努められている。また、職員は、その人らしさを大切にされた支援が出来ているか振り返りをしながら、自己評価も積極的に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で直接交流は困難な状況だが、公民館祭りへの作品出品など継続して行っている。また季刊誌や運営推進会議等でGHからの発信を行う事で、地域とのつながりが継続できるよう工夫している。	年4回季刊誌「四季」の便りを地域、運営推進会議等で配布され、地域との繋がりが継続出来るように工夫されている。また、コロナ禍により、交流を深めることは困難な状況ではあるが、公民館まつりへ作品を出品予定など交流が途切れることがないように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や季刊誌で認知症ケア実践方法を伝えている。写真や入居者自身の手記など紹介し、認知症への理解につながるようになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書での回答や、電話や来訪時などの機会に頂いた意見を真摯に受け止めサービスの見直しや事故防止の対策を検討している。	運営推進会議は、現在、書面でのやり取りで行われている。日頃の様子が変わりやすくなるよう写真等で工夫されたり、家族、地域、行政等との意見交換をし、そこでの意見をサービス向上に活かされている。今回、7月には、対面による会議が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長・管理者が主体となり、電子メールなどで連絡を取っている。運営推進会議や報告事項への回答など、運営に活かせるようにしている。	運営推進会議の委員として、様々な意見交換やアドバイスをもらわれ、事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝えられながら、協力関係を築かれ、運営に活かせるよう努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月スタッフ会議で身体拘束に関する振り返りを行い理解を深めている。病院内の身体拘束の委員会にも出席し、伝達している。転倒リスクなど個別の案件は、主治医・家族・職員がその都度検討している。	身体拘束をしないケアについて、毎月のスタッフ会議で全職員が振り返りを行い、正しく理解するように努められている。また、法人内の身体拘束対策委員会に参加し、ホーム内のスタッフで勉強会をされるなど、伝達されている。転倒リスク等については、医師、家族、職員がその都度話し合い、対策を検討されながら取り組まれている。日中の施錠はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して毎月振り返りと現状の検討を行っている。不適切行為や声かけの言葉が適切か、日頃のケアについても話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もあり、協力して支援している。制度利用に関しての資料を設置しており、案内の文書も掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に沿って説明を行い理解の上、契約をお願いしている。また改定事項についても口頭と文書で説明を行い、疑問点や要望など聞ける関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で入居者の要望など聞き、電話やお便りで情報共有・交換行い、運営推進会議で頂いた質問や意見はケアや運営の参考にして活かしている。意見箱設置や苦情解決窓口も案内している。	日々の生活の中で利用者の意見や利用者家族の要望を聞かれ、また、電話やお便りで情報共有し、質問や意見を運営に反映できるように努められている。意見箱が設置され、苦情相談窓口も案内されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やチーム会で意見や相談・協議を行い、全職員が役割を持つことで運営に参加できている。また、日頃からコミュニケーションを取り、業務の改善・検討を行える環境がある。	月に1回のスタッフ会議やチーム会で意見や相談協議が行われ、全職員が役割を持って運営に関わっている。利用者の要望やケアプランは、家族に連絡をし、日々のケアの中で管理者に伝えられ、さらなるサービスの向上に活かされている。個別面談は年に2回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チームリーダー制を取り入れスキルアップや意欲向上に繋げている。個々の面談と意欲向上評価表で目標や思いを確認している。職員の状況に応じた働き方ができるよう柔軟な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加して伝達講習を行い、職員主体での勉強会開催など、介護力を上げる取り組みをしている。管理者や施設長にも相談する事も多く、全体の能力向上出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、相互交流は中断しているが、他GHの運営推進会議への参加で取り組みを参考にしたり、機関誌を通しての情報交換や情報発信を続けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談等の時から、状況や本人の思いを聞き、早期に情報収集することで、入居後から心身落ち着いて生活できるように努めている。本人の意思や尊厳を重視した対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前後など早めに不安や心配な事案の相談にのり提案や協議している。入居後の様子など写真入りのお便りやオンライン面会支援で安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の調査や医療機関などからの情報や本人・ご家族の要望など伺い、デイケアやリハビリの利用など必要に応じたサービス利用ができるようソーシャルワーカーをはじめ多職種連携で取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の様々な場面で入居者の意見や希望を聞き、入居者主体の生活が送れるよう支援している。また本人らしさを大切に、役割を持つ事で自信を持ち明るく笑顔で生活が送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお便りや写真で伝えたり、電話や来訪時には近況や相談などもしている。家族による受診や散髪の付き添いなど、家族とともに協力して入居者を支える関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会、電話や手紙など家族や友人との交流を支援している。コロナ禍のため、買い物や訪問は難しいが、思い出の場所へのドライブなど出来るだけ、今までの生活が継続できるよう努めている。	コロナ禍により、家族、友人との交流はオンライン面会、手紙、電話等で馴染みの関係が継続できるよう支援に努められている。買い物や訪問は、難しい現状であるが、思い出の場所へのドライブなど外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に家事・趣味活動を一緒に行い、なじみの関係作りができるよう準備や環境調整している。入居者同士の関係性も考慮し、トラブル時は職員が仲介するなど孤立や疎外感を感じないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお便りを出したり、法人の病院に入院された方の見舞いや病院職員から様子を聞いたり関係を大切にしている。また施設移行などの相談なども法人全体で協力・支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や本人の様子から困りごとや思いをくみ取り、希望に沿った生活が送れるよう支援している。気持ちを言葉などに表出できない場合もあるが、本人の表情やペースに配慮してゆっくり思いを聞くようにしている。	日々の生活の中で、利用者の想いや希望が引き出せるよう、信頼関係が築かれている。また、利用者同士の会話の中から思いを読み取られるなど、小さな表情の変化や態度を把握し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴などの聞き取りや、利用していた施設や病院からの情報提供を元に、その人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースを尊重しつつ、生活リズムを作れるよう支援している。有する能力を奪わないよう見守ることも大切にしている。一緒に過ごす中で現状把握し、日々の様子を記録することで職員が情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医等の意見を取り入れ、チーム会やスタッフ会議で意見交換し、様々な視点から介護計画を検討・作成し、本人の生活が充実したものとなるようにしている。	介護計画は、利用者に必要なケアやより良い生活の実現を目指し、利用者、家族、主治医等の意見を取り入れながら、チーム会やスタッフ会議等で意見交換をしつつ、作成されている。 利用者一人ひとりの生活の様子を個別に記録され、出来ることをもっとできるように暮らしの中に取り入れるよう心がけられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカス用紙にケアプランに沿った支援の実施を記録し、心身の変化や生活の様子を職員間で情報共有し、チーム会などを通して課題の検討など行い介護計画の見直しをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チーム会やスタッフ会議で全職員が意見を出し合ったり、栄養士による食事指導、リハビリ職員による姿勢保持・改善に向けての検討など多職種と連携することで、個々のニーズに最善の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美術館・公民館への作品出品や小学校のマラソン応援など入居者の楽しみや意欲が持てるような支援をしている。また福祉理美容の利用を誰でも利用出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続受診や往診依頼など適切な医療が受けられるよう支援に当たっている。心身状態がしっかり伝わるよう、情報伝達している。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診が出来るよう支援されている。家族同行が基本だが、現在コロナ禍で家族対応が難しい場合は、職員が同行受診されている。結果はその都度電話で伝えられ、家族の来所時、おたより等で経過が報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の外来看護師と情報共有し、身体状況の変化や気になる事は相談・助言をもらい主治医への報告や速やかに指示がもらえる体制作りをしている。他科受診後は結果を伝え、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院・入院先のソーシャルワーカーと、連絡を取り情報交換ができ、入院中の状態や退院後に予測される事態など想定することで、退院後のGHでの生活がスムーズに送れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合やあり方についての説明を行い意向を伺っている。状態変化をこまめに家族に伝えており、状況に応じて介護保険の変更申請の案内や相談にのり、次の準備がスムーズに出来るように支援している。	入居の際、重度化した場合やその対応について家族に説明されている。グループホームの一員として誰もが楽しく生活することを目指しているため、看取りはされていない。併設病院と連携を取り、状況に応じた支援が出来る体制を整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習を受けており、スタッフ会議などで急変・事故発生時の対応について確認している。資料やマニュアルに沿い、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に病院全体の避難訓練に参加している。GH独自でも入居者参加で避難訓練を実施し、行動の把握ができることで課題点や検討事項を明確にしている。定期的な消火器点検なども行っている。	災害マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施されている。法人全体の災害訓練の他、風水害、地震想定でのグループホーム独自の避難訓練が行われている。また、外部の協力者にもわかるよう、利用者の介助方法について表示し、周知されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けや尊厳を重視した対応について話し合っている。トイレ時や入浴時はカーテン利用するなどプライバシー配慮もしている。倫理や接遇の研修や、スタッフ会議時に勉強会を実施し意識付けできるようにしている。	毎月の接遇委員会で、チェック項目について確認されている。利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、個々に添った対応を心がけられている。倫理や接遇の研修を実施し、スタッフ間で常に連携を取りながら対応の仕方を統一されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを聞いたり、表現できない方は思いをくみ取り自己決定できるように声掛けをしている。日常的な会話の中で思いが表出しやすい雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えつつ、入居者のペースや希望に沿った活動や過ごし方の提案ができるよう、個々の特性を理解・把握するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出は困難な状況にあるが、好みにあった衣類の選択や福祉理美容での整容などの支援をしている。髭剃りや爪切りなど日常的に支援を行い、清潔に過ごせるよう配慮もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや節句や誕生日などに合わせた献立作りをしている。3食とも食事作りから片付けまで入居者と共に行い個々の能力や生活歴に合わせた対応をしている。	献立は職員が1週間分のメニューを立て、同法人の管理栄養士により、アドバイス、栄養指導を受けられている。季節の食材を中心に、行事食、誕生日のお祝いメニュー等、個々の希望を聞かれ、提供されている。利用者と職員と一緒に調理、片付けを行い、個々の能力に合わせ支援されている。その日のメニューは、利用者がボードに書かれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養指導でバランスや衛生面に配慮している。医師からの指示や体調に合わせた食事の提供や食器の配置など認知度に応じて食べやすい工夫もしている。好みの物やお茶ゼリーなどで水分補給できる工夫をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り・介助で口腔ケアしている。舌ブラシの使用や週2回の義歯消毒など個々の状況に応じ、口腔内の保清に努めている。歯科受診や往診の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ案内をしたり、排泄動作の説明など行う事で自立した排泄ができるように支援している。昼夜の排泄状況に応じて、布パンツ⇒リハビリパンツに移行するなど対応している。	チェックシートにて、個々の排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導をされている。また、自尊心を傷つけないタイミングで排泄確認し、介助されている。個々の状況に応じて、布パンツから夜間リハビリパンツに移行されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	掃除や家事活動など日常的に体を動かす機会を持ち、適度な運動や飲食による自然な排便が行えるよう工夫している。排便状況に応じ、温糞法も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により同性介助、体調や血圧の変動時には時間を調整するなど個々に合わせた支援をしている。柚子湯など季節感を楽しむ工夫もしている。	入浴は、利用者の希望に添って、午前と午後で対応され、拒否がある場合はタイミングを見て声かけし、週2回以上は入浴してもらわれている。希望があれば、毎日でも入浴可能である。また、希望を聞かれ同性介助とされている。柚子湯、しょうぶ湯など、季節感を楽しめたり、入浴剤でリラックス出来る様工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や今までの生活習慣に応じた休息を勧めたり、室温や寝具の調節を行っている。また日中に活動することで生活リズムを整え、夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認することで処方薬の理解を行い、処方や容量などの変更時は回覧・連絡ノートへの記載などで把握できるようにしている。禁忌薬についても書面に残すことで意識付けできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体力や習慣を把握し、塗り絵・裁縫・植栽など個々の希望や能力に沿った活動ができるようにしている。毎月希望おやつの日を設け、入居者の楽しみに繋げている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で制限中の為、外出支援は困難な状況にあるが、病院敷地内の散歩やドライブなどで外気浴を楽しめるようにしている。GH玄関前で、お花見を兼ねてお弁当を食べるなど、戸外で過ごす時間をもてるよう支援している。	コロナ禍で制限はあるが、花見やドライブ、りんご狩り等、積極的に外出支援をされている。また、ゴミ捨てや施設周辺の散歩など、日常的に外気浴を楽しめる様、工夫されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により本人所持している。コロナ禍のため買い物外出は制限中だが、病院内の売店利用など制限の範囲内で買い物ができるように支援している。欲しい物があれば小遣いで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使い方の支援や、オンライン電話で家族との時間が持てるようにしている。絵葉書を作り、家族や友人に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画作りや生け花を入居者と一緒に行い、明るい雰囲気となるように配慮している。温度・湿度調整したり、トイレや浴室など場所の表示をすることで困ることなく生活できるよう工夫している。	共用の空間は、湿度、温度、換気に気を配り、清潔に保たれている。室内には季節の花を飾り、壁には利用者と一緒に作成された季節の飾りや作品が飾られ、個々の行事ごとの写真が掲示されている。共用スペースの各コーナーには、テレビやピアノが設置され、利用者はそれぞれの思い思いの場所でゆっくりと過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が近くの席になるよう配慮している。談話室にはソファやテレビや本を配置し、ゆっくり過ごせる場所作りをしている。ベンチには座布団を置き、入居者同士の交流の場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真、趣味の物など個々に合わせた居室作りをしている。動線に配慮した家具の配置など、安全にも配慮している。	居室は、エアコン、ベッド、タンス、洗面台が設置されている。寝具類は個人所有だが、シーツはリースで一週間に一度交換し、室内換気、空調にも気を配り、清潔な空間で過ごせるよう支援されている。また、家族の写真、テレビ、テーブル、鏡台、位牌等を持ち込まれ、安心して過ごせるよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目線に合わせた表札の設置や、分かりやすい案内表示をしている。手摺りを設置して、一人での移動や行動がしやすくなるよう安全に配慮している。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・生活理念は、職員だけでなく来訪者等にも分かり易く玄関・事務所に掲示している。住み慣れた地域の中で、認知症があっても自分らしく自信を持ち、安心して暮らせるよう支援をている。	運営理念、生活理念は、玄関、事務所に提示され、ゆっくり一緒に楽しんで、家庭らしさを出せるよう努められている。また、職員は、その人らしさを大切にしたい支援が出来ているか振り返りをしながら、自己評価も積極的に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為以前のように地域の方との交流の機会はないが地区公民館祭や美術館に入居者と作成した作品を出展したり、季刊誌を定期的に配り地域の方々に認知症についての理解が深まるよう努めている。	年4回季刊誌「四季」の便りを地域、運営推進会議等で配布され、地域との繋がりが継続出来るように工夫されている。また、コロナ禍により、交流を深めることは困難な状況ではあるが、公民館まつりへ作品を出品予定など交流が途切れることがないように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム勤務が10年以上の職員も多数おり、経験や実践をもとに認知症の人への理解や症状に沿った支援の方法等を季刊誌に掲載したり電話での問い合わせに答え、地域の方へ向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面式での運営会議は現在行っていないが、書面にて、日常の生活の報告やサービス内容を情報提供し、家族・地域の方・行政等との意見交換を行っている。意見や要望が反映したサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、現在、書面でのやり取りで行われている。日頃の様子がわかりやすくなるよう写真等で工夫されたり、家族、地域、行政等との意見交換をし、そこでの意見をサービス向上に活かされている。今回、7月には、対面による会議が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長・管理者を中心に、電子メールや電話での連絡・相談を行っている。 現在運営推進会議は書面での開催となっているが意見交換や要望もあり、事業所の運営にも活かせるよう努めている。	運営推進会議の委員として、様々な意見交換やアドバイスをもらわれ、事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝えられながら、協力関係を築かれ、運営に活かせるよう努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを基本に、自由な生活を支援している。法人内、ホーム内の委員会への参加、スタッフでの勉強会で理解を深め、転倒リスク等、医師・ご家族と十分に話し合い対策を検討している。	身体拘束をしないケアについて、毎月のスタッフ会議で全職員が振り返りを行い、正しく理解するように努められている。また、法人内の身体拘束対策委員会に参加し、ホーム内のスタッフで勉強会をされるなど、伝達されている。転倒リスク等については、医師、家族、職員がその都度話し合い、対策を検討されながら取り組まれている。 日中の施錠はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等の参加は難しいが、オンライン研修や院内研修、自施設での勉強会や職員間で日頃のケアの実施状況を話し合い、対応をお互いチェックし虐待をしない・させない・見逃さない職場作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者は現在いないが、制度については研修参加(オンライン)や法人の専門職(ソーシャルワーカー)からの情報提供により理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に、重要事項説明書に沿って丁寧に説明を行い、理解を得て契約している。制度の改定などの度に、文書・口頭での説明を行い、日頃から疑問や要望など聞き出せるような関係作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者の意見や要望を聞き取り、家族と電話等で情報・意見交換を行うよう努め、運営推進会議(現在は書面)で家族の意見を頂き、日々のケアや運営に活かしている。苦情相談窓口も設けている。	日々の生活の中で利用者の意見や利用者家族の要望を聞かれ、また、電話やお便りで情報共有し、質問や意見を運営に反映できるよう努められている。意見箱が設置され、苦情相談窓口も案内されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議にて、運営状況や指針の報告を行い、実践についてはスタッフ全員で話し合うよう努めている。職員全員が、運営上の役割を分担して担い、主体的に運営に参加できるようにしている。	月に1回のスタッフ会議やチーム会で意見や相談協議が行われ、全職員が役割を持って運営に関わっている。利用者の要望やケアプランは、家族に連絡をし、日々のケアの中で管理者に伝えられ、さらなるサービスの向上に活かされている。個別面談は年に2回行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人向上意欲評価表を用いて、職員個々の目標や取り組み状況を把握し、年2回の面談で一緒に振り返りを行う。経験に応じてステップアップできる研修制度もあり、無理なく働ける勤務体制もとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望、経験に合わせ様々な研修に参加できる体制にしており、他職員への伝達も行う。管理者への相談や職員同士で情報を共有、相談し易い環境を大切にし、共に考え補い合える体制になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者ネットワークの会に参加している。コロナ禍の為、相互研修や他GH運営推進会議への参加はできていないが、書面や電話やメール等を活用し情報交換を行い、サービスやケアの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には施設見学の実施や初期段階で多くの情報を収集に努めている。本人の意見・要望、困り事・心配事を聞き取り入居後の生活に反映し、不安の軽減、安心に繋がるように関わりを多く持つよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や見学時に家族と情報交換を行い、意見や要望、心配な事等を聞き取り信頼関係が築けるよう努めている。入居後は、電話やお便りを通じて入居者の近況をこまめに報告し、相談や意見交換を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前収集した情報、本人・家族の意見、要望を反映した支援になるよう担当者を含め検討し介護計画書を作成、同意を得てケアを導入し、入居後の生活を観察し必要に応じサービス内容を変更し対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を主体とし、できる事を取り上げない・できない事をそっとフォローするケアを行い自信を持った生活が送れるよう支援している。職員も活動・生活を共にし互いに助け合い、信頼関係が構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや電話等で近況や状態の変化を報告し、オンライン面会でも様子を見て頂いている。本人との関係性や家族の想いも配慮し家族として、できる範囲で協力して頂き相互に支援する関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のように知人や兄弟等と交流する機会は減ったが、手紙や電話、オンライン面会等で馴染みの関係が継続できるよう支援している。住んでいた地域やなじみの場所等へ外出する支援も行っている。	コロナ禍により、家族、友人との交流はオンライン面会、手紙、電話等で馴染みの関係が継続できるよう支援に努められている。買い物や訪問は、難しい現状であるが、思い出の場所へのドライブなど外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で入居者同士の関係性を把握し、環境調整や仲介を行っている。一緒に協力して活動し、楽しんで生活できるような環境作りや、気の合う仲間です人数の外出する等楽しい時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は入院退居された方を見舞いに行っていたが、今は実施できず。退居された方の家族の相談等にも対応し関係が継続できるよう努めている。問い合わせ等は法人全体での相談・協力体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で信頼関係を築き、本人の思いや希望を引き出せるよう関わりを持つ。遠慮や言葉で表現できない場合等も普段の生活を観察し本人の表情や反応、会話からニーズを導き本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の思いや希望を引き出せるよう、信頼関係が築かれている。また、利用者同士の会話の中から思いを読み取られるなど、小さな表情の変化や態度を把握し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や好みや習慣等、家族から聞き取りをしたり本人との会話等から情報を収集している。以前利用のサービス機関から情報を頂き、支援に活かす等その人らしい暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から入居者個々の心身の状態・認知症の症状等の細かな変化を記録に残し、職員間で情報を共有し話し合いをしている。個々の現状を把握し、得意な事や残存機能を発揮できる機会を持てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医や職員、他関係者の意見や課題等を会議や普段から話し合い具体的なケアになるよう検討している。本人に必要なケアやより良い生活の実現や支援に繋がる具体的な介護計画を作成している。	介護計画は、利用者に必要なケアやより良い生活の実現を目指し、利用者、家族、主治医等の意見を取り入れながら、チーム会やスタッフ会議等で意見交換をしつつ、作成されている。利用者一人ひとりの生活の様子を個別に記録され、出来ることをもっとできるように暮らしの中に取り入れるよう心がけられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別の活動状況や介護サービス提供、心身の状態・変化、言動、医療的事項等を記録し、職員間で情報を共有しそれを元に課題を把握し、今後の対応を検討したりなど介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3食手作りでの食事提供となったが今まで通り管理栄養士による献立への助言やカロリーや糖尿病食などの栄養指導を受けている。嚥下し易い食事形態の変更等個々の状態や変化に対応した迅速な支援を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事参加や公共施設利用等行えていないが、地域の公民館祭や美術館へ入居者作成の作品を展示して頂き、感染対策に配慮し鑑賞に行く機会を持ちたり図書館から借りた本を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の受診や往診が継続できるよう情報提供や報告等を行い、個々の状態に応じ外部の医療機関へ受診がスムーズにいこう主治医に紹介状を頂き適切な医療が受けられるよう支援を行う。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診が出来るよう支援されている。家族同行が基本だが、現在コロナ禍で家族対応が難しい場合は、職員が同行受診されている。結果はその都度電話で伝えられ、家族の来所時、おたより等で経過が報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接病院のGH担当の看護師に日頃より入居者の気になる状態や変化の報告・相談し、適切な医療の提供なるよう対応をしている。夜間や休日等にも相談できる病棟が決まっており協力体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な入院等に対応できるよう個別に介護連絡表を作成し、情報提供し連携を図っている。入院中もソーシャルワーカーや病棟担当者との情報交換し、必要に応じて面談するなど退院に向けた準備をしたり、GHでの生活継続が可能かどうか判断している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合、法人全体でその方に合った環境で支援する方針を入居時家族に説明し理解を頂く。状態の変化や重度化に進む傾向がある時は、その都度家族と面談し主治医やPSWと連携し希望に沿える環境(施設・病院等)に移行できるよう努めている。	入居の際、重度化した場合やその対応について家族に説明されている。グループホームの一員として誰もが楽しく生活することを目指しているため、看取りはされていない。併設病院と連携を取り、状況に応じた支援が出来る体制を整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、会議でも話し合いをしている。救急蘇生法などの研修会や訓練にも各職員が参加し、その都度伝達し実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、定期的に入居者と職員で避難訓練を行い、またビデオ視聴による災害時の対応も学んでいる。火災報知器や消火・通報装置の設備もあり入居者や家族の安心に繋がっている。	災害マニュアルを作成し、定期的避難訓練を実施されている。法人全体の災害訓練の他、風水害、地震想定でのグループホーム独自の避難訓練が行われている。また、外部の協力者にもわかるよう、利用者の介助方法について表示し、周知されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時はさり気ない声かけを行い、プライバシーに配慮しカーテン等を使用、入浴時は羞恥心に配慮し同性介助を適宜行う。接遇や倫理等の勉強会等も行い職員間で人格に配慮した対応に努めている。	毎月の接遇委員会で、チェック項目について確認されている。利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、個々に添った対応を心がけられている。倫理や接遇の研修を実施し、スタッフ間で常に連携を取りながら対応の仕方を統一されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望を引き出せるよう関わり、実行に繋げている。希望を表現できない方にも、思いを汲み取るよう会話したり、本人が選択できるような方法で関わり、自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望の活動がある際には、他の業務を調整するなど工夫し、実施できるように対応している。入居者個々の過ごし方が違っており、本人の意向に沿った活動やペースに合った生活を支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望に沿って定期的に隣接病院の美容室や訪問型福祉理美容を利用し散髪や毛染め等を行っている。コロナ禍であまり外出は出来ないがドライブ等にはおしゃれをして出かけるよう働きかけを行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立などには入居者の意見を取り入れ作成し、調理、盛り付け、片付けも必ず入居者が参加している。季節感のある料理、行事食(誕生日メニュー)・おやつ作り等を楽しめるよう献立を工夫し支援を行う。	献立は職員が1週間分のメニューを立て、同法人の管理栄養士により、アドバイス、栄養指導を受けられている。季節の食材を中心に、行事食、誕生日のお祝いメニュー等、個々の希望を聞かれ、提供されている。利用者と職員と一緒に調理、片付けを行い、個々の能力に合わせ支援されている。その日のメニューは、利用者がボードに書かれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士のチェックもあり、バランスの良い食事を提供している。好みの飲料や飲みやすい物を取り入れ、水分量の確保に努めている。また個々の状態に合わせ主食や副菜の量に配慮したり食べやすい形状で提供を行う。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合った声かけや見守りで、毎食後の口腔ケアを実施している。義歯消毒も週2回行い、入居者に向けた口腔ケアの研修会も実施する。また必要に応じた定期的な歯科往診等の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握しながら、入居者個々の状態に合わせてトイレへの案内や声かけ、パット類の確認や交換を行っている。失禁の無い方は布パンツに移行できるよう支援している。	チェックシートにて、個々の排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導をされている。また、自尊心を傷つけないタイミングで排泄確認し、介助されている。個々の状況に応じて、布パンツから夜間リハビリパンツに移行されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で家事活動や体操などにより、自然に身体を動かす機会が持てるよう支援している。また便秘傾向の方には、適切な下剤の調整や乳製品の使用、水分摂取を多くするよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や身体的状況に合わせて、いつでも入浴できる体制を整えている。又羞恥心に配慮し同性介助をしたり、指圧やクリーム塗布、入浴剤の使用や季節感のある柚子湯を行う等の工夫をしている。	入浴は、利用者の希望に添って、午前と午後で対応され、拒否がある場合はタイミングを見て声かけし、週2回以上は入浴してもらわれている。希望があれば、毎日でも入浴可能である。また、希望を聞かれ同性介助とされている。柚子湯、しょうぶ湯など、季節感を楽しまれたり、入浴剤でリラックス出来る様工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	読書、新聞を読む等の習慣を継続している。個々のペースに合わせて活動を行い、疲れた時には休息もできるように配慮する。日中の適度な運動や活動への参加で生活リズムを安定させ、安眠へ繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については説明書等で内容を把握し、処方変更時は内服開始後の症状の変化等を観察している。状態に合った適切な処方となるように、日頃の様子や血圧等の数値を主治医へ情報提供を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別的にやりがいを持てる活動を探り、趣味の継続や特技を活かした創作活動、脳トレプリント、川柳、塗り絵等の作品作り、園芸等も楽しんでいる。クラブ活動等で書道や工作等をして気分転換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて面会制限・外出の自粛などもあり家族との外出や地域の方との交流は実施できていないが、感染予防に努めながらドライブや密にならない屋外への散歩等に出掛ける支援をしている。	コロナ禍で制限はあるが、花見やドライブ、りんご狩り等、積極的に外出支援をされている。また、ゴミ捨てや施設周辺の散歩など、日常的に外気浴を楽しめる様、工夫されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方は財布を所持している。現在はコロナ禍の為、外出制限等で、買い物や外食の支援などは実施できていない。金銭管理が難しい方も、お小遣いから買いたい物を買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち、家族と連絡する方もいる。希望に合わせて電話の利用を支援し、家族や知人と連絡できるようにしている。年賀状や絵ハガキ等を出したり、手紙等が届いた際には返事が書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所の認識がしやすいよう居室やトイレに表札を貼り、暦や季節の貼り絵等を掲示し、季節感が出るよう工夫している。暖かい雰囲気作りや生活感(調理の音、匂い)のある環境作りに努め、また快適な空間となるよう湿度・温度計を見ながら空調の調整も行う。	共用の空間は、湿度、温度、換気に気を配り、清潔に保たれている。室内には季節の花を飾り、壁には利用者と一緒に作成された季節の飾りや作品が飾られ、個々の行事ごとの写真が掲示されている。共用スペースの各コーナーには、テレビやピアノが設置され、利用者はそれぞれの思い思いの場所でゆっくりと過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と過ごしたい時、1人でゆっくりしたい時に自由に行き来できる談話コーナーを設けて、自分のペースで過ごせる工夫をしている。写真や季節の花を飾り集まって会話をしたり、花の手入れをする事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物や家族や思い出の写真等が持ち込まれた居室作りをしている。個々の趣味や生活に合わせた本や、入居者が大切にしている物(本・位牌・仏壇等)に触れられる環境となっている。	居室は、エアコン、ベッド、タンス、洗面台が設置されている。寝具類は個人所有だが、シーツはリースで一週間に一度交換し、室内換気、空調にも気を配り、清潔な空間で過ごせるよう支援されている。また、家族の写真、テレビ、テーブル、鏡台、位牌等を持ち込まれ、安心して過ごせるよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置等は、個々の状態や動線を考慮し設置を行う。施設内は手すりも多く安全に移動できるようになっており、居室・トイレ・浴室等は分かり易い掲示と声かけで、自分で動く事ができるようにしている。		